

「民間放送ガバナンス指針」に基づく公表事項について

2026 年 10 月 13 日
石川テレビ放送株式会社

石川テレビ放送は「信頼を力に 地域と歩む 感動メディア」を企業理念に掲げ、民間放送事業者の公共性と報道機関としての責務を自覚し、健全な民主主義の発展に資するニュース報道、社会生活の豊かさに寄与する番組制作、経済振興や文化・教育の向上につながる事業活動とともに透明性の高い経営を通じて、地域社会に貢献する持続可能な企業を目指しています。その実現に向けた当社の取り組みに関して、「民間放送ガバナンス指針」が定める 5 つの基本原則に沿って適用状況を公表します。

＜基本原則 1・公共性の発揮＞

- (1) 国民共有の財産である電波を預かって事業を展開していることを自覚し、公共の福祉の実現に寄与する。
- (2) 公正な報道を旨として、知る権利にこたえて健全な民主主義の発展に貢献する。
- (3) 放送法で求められている災害放送や視聴覚障害者向け放送を実施する。
- (4) 地域ジャーナリズムの担い手、地域の情報・文化センターとしての機能を果たす。

＜当社の適用状況＞

■ 企業理念

石川テレビ放送は「信頼を力に 地域と歩む 感動メディア」を企業理念とし、その実現に向けて行動規範となる「5 つの約束」を定めています。詳しくは下記サイトをご参照ください。

【関連ページ】石川テレビ放送 WEB サイト「企業理念」

<https://www.ishikawa-tv.com/philosophy/>

■ 番組基準

当社は、番組の企画・制作・放送にあたり、関係法令および基本方針に従い「日本民間放送連盟 放送基準」に準拠した「石川テレビ放送 番組基準」を定め、これを適切に運用しています。詳しくは下記サイトをご参照ください。

【関連ページ】石川テレビ放送 WEB サイト「石川テレビ番組基準」

https://www.ishikawa-tv.com/information/bangumi_kijyun/

■ 主な自社制作番組

- 平日夕方帯の番組「石川さんパレット」は「伝えるきょう、つながるあした」をコンセプトに、日々の生活に役立つ多様な情報や地域の魅力、地域に根差した人々の暮らしぶりや心の交流を発信しています。
- アーティスト取材や地元のライブ情報を伝える「N-18 凸」は、前身の番組から 30 年以上続く音楽番組で、毎年 10 月にはスペシャル版として金沢工業大学の学園祭会場からライブの生放送も行い、石川の音楽シーンを盛り上げています。
- 国内外で高い評価を受ける「石川のものづくり」に特化し、卓越した企業の技を紹介する「ロザンのいしかわ企業 真面目(しんめんもく)」や、研究に打ち込む金沢工業大学の学生の姿に密着した「物語の始まりへ」などの番組を制作し、石川の産業振興の下支えに努めています。

- 2026 年 1 月にスタートした「はちラボ」は、世界的に市場拡大が加速するインディーゲームの世界を地上波初の専門ミニ番組として取り上げ、業界の注目を集めています。



写真 1 情報番組「石川さんパレット」

■ ニュース報道

言論と表現の自由を守り、事実に基づく取材を積み重ねることを信条に、日々のニュースを正確かつ迅速に届けています。ニュース番組内では、地域課題にフォーカスした「特集」コーナーで課題を深掘りし、その解決につながる報道に取り組んでいます。取材・制作活動に当たっては、勉強会や研修を通して「被害者の人権」「個人情報保護」等に留意するよう努めています。

■ ドキュメンタリー番組・映画

当社は開局以来、人の営みを通して社会や法のひずみを映し出すドキュメンタリー番組に力を注いでいます。

最近ではドキュメンタリー制作部の五百旗頭幸男部長が制作した、この国のかたちに影響を及ぼす家父長制の空気を描いた「日本国男村」が日本民間放送連盟賞最優秀賞(2022 年テレビ報道部門)を受賞。過疎地における民主主義の在り方を描いた「能登デモクラシー」がギャラクシー賞選奨(2024 年テレビ部門)を受けました。

映画化した能登デモクラシーは全国 51 館で上映され、2025 年度の早稲田ジャーナリズム大賞(草の根民主主義部門)などに選ばれたほか、「Threads of Time」のタイトルでスイス、インドの映画祭で上映されました。



写真 2 映画「能登デモクラシー」

■ 災害報道

当社は「県民の命を守る報道」を最優先し、「災害報道対応指針」および「災害放送対応」に沿って正確で速報性の高い報道を目指しています。被災時の報道はライフラインの 1 つであることを強く認識し、日頃は原則として平日午後に報道制作部員を中心に発災時を想定した短時間の初動訓練を実施。全社規模の訓練も定期的に行い、有事に備えています。同時に「災害時安全取材ガイドライン」を継続的に見直し、取材者の安全確保に注力しています。

■ 「令和 6(2024)年能登半島地震」報道

- 元日の夕方に発災した能登半島地震では、発災直後から輪島・朝市の大規模火災の地上映像をいち早く伝えたほか、L 字放送やデータ放送、公式 YouTube チャンネルなども活用し、正確な被害状況と被災者への生活情報を中心に多角的な報道に努めました。1 月 2 日から計 8 回の報道特別番組を編成し、「被災地で何が起き、何が必要か」を手厚く伝えました。
- 地震発災 3 か月の 2024 年 4 月からは、稲垣真一アナウンサーが毎週被災地を歩き、困難に立ち向かい復興を目指す被災者の姿を追った「能登人(びと)を訪ねて」を夕方ニュースの中で放送。放送回数は 2026 年 8 月現在、100 回を超えています。また発災翌年の 25 年以降、元日昼には報道特別番組「能登とともに」を放送。発災時刻の午後 4 時 10 分に合わせて開催される県の慰霊式も生配信し、被災者の心情に寄り添いながら復旧、復興の道のりや課題を追跡、検証しています。今後も地元メディアの責務として、震災の記録、記憶を後世に伝え、震災の風化を防ぐ報道に努めます。

【関連ページ】石川テレビ放送 WEB サイト「能登人を訪ねて」

<https://www.ishikawa-tv.com/notobito/>

■ 地元スポーツ報道

サッカー J3 の「ツエーゲン金沢」、バレーボール SV リーグの「PFU ブルーキャッツ石川かほく」、バスケットボール B.LEAGUE ONE の「金沢サムライズ」、プロ野球独立リーグ(日本海リーグ)の「石川ミリオンスターズ」など、地元チームの試合中継や番組、ニュースを通して地域スポーツの振興に取り組んでいます。また、青少年の健全育成やスポーツ普及を目的に「春の高校バレー」をはじめ小学生から高校生までを対象とした各種スポーツ競技の中継や配信を行っています。

■ 字幕放送・解説放送・手話放送

字幕・解説・手話放送は「情報アクセシビリティに関する指針」に基づき実施しています。2024 年度実績は下記の通りです。

字幕放送	84.5%	(指針目標 80%以上)
解説放送	25.4%	(指針目標 10%以上)
手話放送	1 週間当たり 44 分	(指針目標 15 分以上)

【主な地域貢献・次世代育成の取り組みと地域の情報文化センター機能について】

■ 「石川テレビ賞」

当社は昭和 53(1978)年、地域文化の向上をはじめ産業・スポーツ振興等に貢献した個人・団体を顕彰する「石川テレビ賞」を創設しました。創設から 2026 年の第 49 回までの受賞者は、奨励賞や特別賞を含め計 191 個人、16 団体に上っています。今年の受賞者は下記サイトをご覧ください。

【関連ページ】石川テレビ放送 WEB サイト「石川テレビ賞」

https://www.ishikawa-tv.com/information/itc_award/

■ 世界の風の祭典

内灘砂丘を抱える内灘町で毎年開催するイベントです。町内をはじめ全国から愛好家が集まり、個性あふれるデザインの風を揚げます。38 回目となった 2026 年は約 1 万人が来場し、能登半島地震の復興を願う大風も舞いました。

■ アスレバルいしかわ

石川県内の幼稚園児が集い、毎年開催している体育祭です。46 回目を迎えた 2026 年は 5 月 20 日に開かれ、29 幼稚園から年長組約 740 人が参加し、パラバルーンやダンス、綱引きなどで交流しました。この模様は後日特番で放送し、次世代を担う子どもたちの弾ける笑顔をお茶の間にも届けています。



写真 3 アスレバルいしかわ

■ 「みんなで踊ろう石川サンバ」

未来を担う子どもたちの健やかな成長を願い、県内の幼稚園や保育園の園児たちが当社の人気キャラクター「石川さん」と一緒に「石川サンバ」を踊る番組を毎週放送しています。2003 年 5 月 30 日に“誕生”した石川さんや、方言を取り入れた歌詞と軽快なリズムが魅力の石川サンバは長年、石川の子どもたちに親しまれ、世代を超えて石川サンバを歌って踊れる家族も出てきています。

■ 石川県のおしごと本

2023 年度から、石川県内のすべての中学 1 年生に向けて、県内企業のさまざまな業種を紹介する副教材「石川県のおしごと本」を制作・配布しています。10 年先を見据え、ふるさとの未来を担う子どもたちに「ふるさとで暮らす」「ふるさとで働く」「ふるさとを豊かにする」という 3 つのメッセージを届けています。各中学校では授業で活用されているほか、企業が学校に出向いて授業を行うこともあります。

■ はじめてばこ Hello ! Baby

石川の子どもたちと、子育てに取り組む皆さんにエールを届けたい。そんな思いから、創立 50 周年を迎えた 2018 年より、県内で生まれた赤ちゃんに「はじめてばこ」を贈っています。

加賀てまりをモチーフに、石川らしさをちりばめた飾り箱です。初めてのおくるみや初めて描いた絵など、思い出の品を詰めて大切に保管できます。童謡カードや石川さんスタイ、ご賛同いただいた企業からのプレゼントも添え、「おめでとう！」の気持ちを込めて、毎年 4,000 人近くの赤ちゃんに届けています。2025 年には応募総数が 3 万件に達しました。

■ 「HUBEAT」キャンペーン

2025 年から石川の「食」をテーマに石川テレビがハブ(中心拠点)となって食材、生産者、消費者をつなぎ、石川の食の魅力を発信するキャンペーンを展開しています。スペシャルアンバサダーに彦摩呂さんを迎え、情報番組「石川さんパレット」で応援したくなる飲食店を紹介する「イトシメシ」コーナーや、生産者のこだわりにスポットを当てた「ごちそうのありがたみ」コーナーを放送するなど、幅広い情報を発信しています。また、関連イベントでは 2026 年 6 月に「全国うまいものフェスティバル in 小松」、2025 年と 26 年の 10 月に「金沢おいも万博」をそれぞれ開催し、大勢の来場者でにぎわいました。



写真 4 HUBEAT キャンペーン

■ 炊き出しプロジェクト

2026 年 4 月に「地域貢献委員会」を設置した当社は、活動の第 1 弾として被災時の避難所において安全かつスムーズに炊き出しができる人材育成を目的とした「炊き出しプロジェクト」を始めました。衛生管理や大量調理法などに重点を置いた実践的なマニュアルをもとに炊き出し手順を学んでもらうプロジェクトで、マニュアルはフジテレビが能登半島地震で活動した NPO「能登にエール」の協力で作成したものです。初回は 8 月 5 日、当社敷地内に地域住民や企業関係者らが集まり、NPO、フジテレビ、富山テレビの協力も得てカレー、牛丼計 100 食分を調理しました。今後は行政とも連携しながらプロジェクトの輪を広げていく方針です。



写真 5 炊き出しプロジェクト

■ 花嫁のれん能登復興支援プロジェクト

能登が舞台となったドラマ「花嫁のれん」の縁をきっかけとした次世代育成ワークショップを 2026 年 8 月 20 日、石川テレビ本社で開催しました。東海テレビの呼びかけによるプロジェクトで、愛知県の名城大学と石川県の金沢大学の学生たちが被災地能登の将来について意見を交換し、能登の未来像を考えました。

■ 若葉旗・ひまわりほーむカップ争奪石川県ジュニアサッカー大会

当社主催の県内最大規模の少年サッカー大会で、42 回目の 2026 年は 5 月 17 日～6 月 14 日に開催し、U11(5 年生以下)の部に 43 チーム、U12(6 年生以下)の部に 55 チーム、総勢 1,300 人の選手が熱戦を繰り広げました。決勝戦は毎年、中継録画で放送しています。

■ メディアリテラシー向上に資する取り組み

当社は、中学生を対象とした出前授業のほか、児童や学生を中心とした局内見学を積極的に実施しています。

<基本原則 2・人権尊重の徹底>

- (1) 事業活動全般において人権尊重を徹底する。
- (2) 人権が尊重される社内体制を構築して、継続的に改善を行う。

<当社の適用状況>

■ 人権方針の策定

石川テレビ放送は「基本的人権の尊重はすべての事業活動の基盤」と認識し、2024 年 5 月に

- ① 人権の尊重
- ② 差別・ハラスメントの禁止
- ③ 安心して働ける職場づくり

を柱とした「石川テレビ放送人権方針」を策定しました。詳しくは下記サイトをご参照ください。

【関連ページ】石川テレビ放送 WEB サイト「石川テレビ放送人権方針」

https://www.ishikawa-tv.com/information/jinken_houshin/

■ ハラスメント対応方針の策定

当社は 2025 年 5 月、ハラスメント被害の防止策や被害発生時の適切な対応をまとめた「ハラスメント対応方針」を策定しました。冒頭の社長メッセージでは、浅忠史社長が「被害を未然に防止し、万一被害が出た場合は徹底的に被害者の心身をケアする」と宣言し、「対応方針に沿って行動することは、メディアとしての社会的使命を果たしていくことにもなる」と強調しています。

■ ハラスメント外部窓口の設置

ハラスメント対応方針に沿って社内通報窓口のほか、外部の弁護士に通報窓口業務を委託しています。通報があった場合は適切に対応し、プライバシー保護に配慮しつつ対応内容を取締役会に報告します。

■ 組織・研修

- 委員会組織として「人権・ハラスメント部会」および「職場環境部会」を設置し、それぞれ実効性のある施策立案や研修内容の検討、体制・マニュアル等の見直し作業を行います。とくに職場環境部会は若手中心のメンバー構成とし、現場の声を吸い上げながら快適で最大限のパフォーマンスが発揮できる職場環境づくりに努めます。
- ハラスメント防止に関する正しい理解と意識向上を図るため、2025 年は女性弁護士を講師に迎え、管理職向け(3 月)と、社外スタッフを含めた一般職員向け(5 月)の研修会をそれぞれ実施しました。今後も定期的な研修会や社員アンケート等を通じて、人権を尊重する風通しのよい企業風土を醸成します。

■ 組合員に対する個別面談

働きやすい職場づくりとキャリア支援を目的に、2021 年度から組合員を対象としたアンケートを実施し、アンケート結果をもとに担当役員が個別面談を行い、現場の声を職場環境の改善に活かしています。

<基本原則 3・法令や社会規範の遵守>

- (1) 高い公共性が期待される放送事業者として、法令や社会規範を遵守する。
- (2) 役員・社員は高い倫理観と職業意識を養い、公正で透明な事業活動を行う。

<当社の適用状況>

■ 全社的なコンプライアンス推進体制

- 石川テレビ放送は、社長を委員長とするコンプライアンス委員会および、各部局のコンプライアンス責任者に任命した局長クラスで組織するコンプライアンス部会を設置し、情報共有しながら法令遵守の徹底とコンプライアンス経営の推進に努めています。詳しくは下記サイトをご参照ください。
- 2026 年度からコンプライアンス担当役員を配置し、経営本部にコンプライアンス推進室を開設して実効性の高い施策の立案、実施に努めています。社内やステークホルダーからの相談には、必要に応じて弁護士を交えて協議し、きめ細かく対応するほか、関係法令の改正等について周知徹底を図っています。

■ コンプライアンス宣言および行動基準

当社は、「高い倫理観を備えたコンプライアンス経営を推進する」との姿勢を明確にした「石川テレビ コンプライアンス宣言」を 2026 年 4 月に制定しました。同時に

- ①法令遵守
- ②公共性の尊重
- ③社会貢献
- ④健全な企業活動
- ⑤情報開示・管理
- ⑥職場環境

を柱とした「コンプライアンス行動基準」を策定し、社内への浸透を図るとともに地域社会からの信頼向上に努めています。

【関連ページ】 石川テレビ放送 WEB サイト「コンプライアンス宣言」

<https://www.ishikawa-tv.com/pages/compliance/>

■ 内部通報制度

当社は、内部通報制度「石川テレビ・スピークアップライン」を設置し、不正行為等の早期発見および早期是正に努めています。社内窓口はコンプライアンス推進室が担当するほか、社外にコンプライアンス全般とハラスメント専用の窓口を設け、2 人の弁護士にそれぞれ業務委託しています。通報があった場合は、通報者のプライバシー保護を最優先して適切に対応するとともに、窓口の運用状況を取締役会に報告します。

■ 情報セキュリティ

当社は、サイバー攻撃などのリスクに備え、情報セキュリティに関する基本方針や規程を定めています。各部署に情報セキュリティ責任者を配置し、リスクに関する情報共有や情報資産の適切な保護に努めているほか、全社的には 2026 年 3 月に役員・管理職・一般社員それぞれを対象にした研修会を開き、危機管理意識の浸透を図っています。

■ 個人情報の取り扱い

当社は、個人情報保護規程に基づき、番組取材で得た機密情報やプレゼント企画等で取得した個人情報を厳格に管理しています。また、研修やeラーニングを通してメールの誤送信防止やソーシャルメディアでの不適切発信の禁止などを徹底しています。

■ SDGs の取り組み

- 当社は2021年6月、国連の「SDG メディア・コンパクト」に加盟し、「エコモーションキャンペーン」をはじめ番組やイベント等を通じて脱温暖化、循環型社会への情報発信、普及啓発に取り組んでいます。

【関連ページ】石川テレビ放送 WEB サイト「SDGs」

https://www.ishikawa-tv.com/sdgs_initiatives/

- 当社は、県が推進する環境マネジメントシステム「いしかわ事業者版環境 ISO」に、県内の報道機関に先駆けて2009年に登録し、CO₂排出量の削減や環境負荷の低減、環境保全運動に努めています。2025年には省電力化を伴う大型設備更新が評価され、優良活動表彰を受けました。

<基本原則 4・透明性の向上>

- (1) 社会全体がステークホルダーであるという放送事業の性格を踏まえて、企業経営にかかわる諸情報(企業理念、役員の構成、基本的な財務情報など)の積極的な開示を行い、透明性を向上する。
- (2) 自律が独善に陥らないように、幅広いステークホルダー(視聴者・リスナー、広告主、取引先、従業員、地域社会など)との対話の回路を強化する。

<当社の適用状況>

■ 経営情報

石川テレビ放送は、民間放送事業者および報道機関としての公共性を強く自覚し、経営の透明性向上に努めています。民放連のフォーマットに照らした経営情報は下記のとおりです。

所定フォーマットに基づく回答

企業理念

信頼を力に 地域と歩む 感動メディア

資本構成

資本金:3 億円

発行済株式総数:60 万株

主要株主(2026 年 6 月 26 日現在)

1/10 を超える議決権を有する者とその者の議決権比率

- ・ 株式会社東海放送会館 23.45%
- ・ 株式会社中日新聞社 19.91%

株主総数:47 人

役職員数(2026 年 6 月 26 日現在)

役員:13 人【男:13 人(100%)、女:0 人(0%)】

職員:76 人【男:50 人(65.8%)、女:26 人(34.2%)】

役員構成

2026 年 6 月 26 日現在

代表取締役社長	浅 忠史	
代表取締役副社長	林 浩樹	
常務取締役	米澤 利彦	
常務取締役	井家 通	
取締役	北川 淳一	
取締役	大島 宇一郎	[社外]株式会社中日新聞社代表取締役社長
取締役	寺口 時弘	[社外]株式会社大和代表取締役専務
取締役	林 泰敬	[社外]東海テレビ放送株式会社代表取締役社長
取締役	藤田 隆史	[社外]株式会社フジテレビジョンコーポレート本部経営企画局上席株式統括兼株式会社フジ・メディア・ホールディングス兼務出向
取締役	渡辺 英俊	[社外]株式会社読売新聞東京本社北陸支社長

取締役	竹林 幸司	[社外]株式会社朝日新聞社社長室メディア・ネットワーク政策担当補佐役
監査役	山本 肇	
監査役	中田 二郎	[社外]天狗中田産業株式会社代表取締役社長

財務情報

【貸借対照表】

(2026年3月31日現在)

(単位:千円)

≪資産の部≫

流動資産	2,468,375
固定資産	3,480,671
資産合計	5,949,046

≪負債の部≫

流動負債	401,651
固定負債	317,549
負債合計	719,201

≪純資産の部≫

株主資本	5,229,845
資本金	300,000
利益剰余金	4,929,845
純資産合計	5,229,845
負債及び純資産合計	5,949,046

【損益計算書】

(自2025年4月1日～至2026年3月31日)

(単位:千円)

売上高	3,427,244
営業損失	64,714
経常損失	13,136
税引前当期純損失	13,185
当期純損失	23,945

番組審議会委員

委員長	山本 博	公立小松大学前学長 金沢大学名誉教授
副委員長	瀬口 晴義	株式会社中日新聞社取締役北陸本社代表
委員	岩木 弘勝	株式会社サクセスブレイン代表取締役会長 税理士
委員	北 篤司	社会福祉法人すずらん保育園理事長
委員	松田 若子	能楽師
委員	宮下 智裕	金沢工業大学建築学部教授
委員	谷口 陽子	キャリアコンサルタント 産業カウンセラー
委員	北尾 美帆	弁護士

自社批評番組

「石川テレビマンスリーNote」

番組審議会開催月最終日曜 午前 11 時 45 分～11 時 50 分 放送

ステークホルダーとの対話

- 当社は、外部有識者による番組審議会(8 人)を定期的を開催し、提言や意見を番組制作に反映させ、適正な番組制作、ニュース報道に活かしています。詳しくは下記のサイトをご参照ください。

【関連ページ】 石川テレビ放送 WEB サイト「石川テレビ放送番組審議会」

<https://www.ishikawa-tv.com/sinngi/>

- 当社は、番組モニター制度を活用し、公募・委嘱したモニター(6 人)に毎月 4 番組を視聴していただき、意見や感想を番組づくりの参考にしています。

<基本原則 5・適切な経営体制の確立>

- (1) 取締役会は、株主からの負託にこたえて、関係者との取引関係も含めて適切な事業運営が行われるように業務執行を監督する。直接の業務執行を行わない社外取締役や監査役の役割は、特に重要である。
- (2) 会員社の代表者は、本指針適用の責任を担う。また、ガバナンス不全が疑われる重大な事案が発生した場合には、必要な情報開示を行いながら、信頼回復に向けた施策を積極的に講じる。

<当社の適用状況>

■ 取締役会の構成

石川テレビ放送は、取締役 11 人のうち過半数となる 6 人を社外取締役とするほか、監査役 2 人のうち 1 人を社外監査役に選任し、経営監視機能の強化とともに取締役会における意思決定の透明性向上に努めています。

■ 取締役会の開催・出席状況(2025 年度)

2025 年 5 月 29 日(木)	取締役 11 人、監査役 2 人	出席率 100%
2025 年 6 月 30 日(月)	取締役 11 人、監査役 2 人	出席率 100%
2025 年 10 月 7 日(火)	取締役 11 人、監査役 2 人	出席率 100%
2026 年 1 月 29 日(木)	取締役 10 人、監査役 2 人	出席率 100%
2026 年 3 月 5 日(木)	取締役 10 人、監査役 2 人	出席率 100%

※取締役数は 2026 年 1 月 14 日に 1 人が辞任したため、以降の人数は 10 人です。

■ ガバナンス対応

当社は、代表取締役社長が「民間放送ガバナンス指針」の適用について責任を担い、ガバナンスに関する重要事項は取締役会に付議し、継続的な改善を図ります。また、ガバナンスに関わる重大な問題が認められた場合は、迅速に事実関係の調査を実施し、必要な是正措置および再発防止策を講ずるとともに、ステークホルダーに対する説明責任を果たします。